

養生片仔癩の研究内容：

<実例報告> <臨床試験>

「漢方によるウイルス肝炎の治療と肝臓の予防の可能性」

平成16年10月4日 リーガロイヤルホテル広島

広島大学医学部主催

フランチェスコ マロタ (イタリア・ミラノ大学教授)

参加者 36名

世話人 吉澤浩司教授 (広島大学大学院疫学・疾病制御学)

茶山一彰教授 (広島大学大学院分子病態制御内科学)

井内康輝教授 (広島大学大学院病理学)

司会 吉澤浩司教授

後援 漢方養生研究所

ヨーロッパやアメリカでは薬草製品(herbal product)が肝臓病に効果的かどうかの研究が盛んに行われており、実際には肝臓病患者の三分の一が薬草製品を治療に用いている。数ある薬草製品のうちで肝機能値を正常値に戻す効果のある養生片仔癩 (YHK) に注目し、数年前より研究をしている。この養生片仔癩は漢方養生食品であり、原材料は田七、杜仲、黄精、甘草である。また重金属や大腸菌群は含まない。なお本試験では生化学的に同一の養生片仔癩を使用した。

試験には隔離後1週間が経過した150匹のマウスを使った。肝臓繊維モデル (0.2ml/kg のCCL4を1週間に2度腹腔内に注射) を適用。そしてマウスを次の2グループに分けた。

- 通常の食餌グループ
- 通常の食餌プラスYHKを50mg/kgのグループ

健康なラットを対照群とした。肝臓を除去し、除去した肝臓を計量した。同時に採血も行った。肝臓のヒドロキシプロリン含有量は次のとおりであった。

週	対照群	CCL4	CCL4+YHK
0	367±75	344±87	401±110
10	389±93	839±147	563±132
20	343±61	1190±205	718±151

YHKを与えたラットはトランスアミナーゼのプラズマ値が大幅に減少した。胆汁うっ帯のプラズマ値もYHKの効果により大幅に減少した。これらの結果から、養生片仔癩には潜在的な抗繊維効果があると考えられ、今後の臨床試験での確認が望まれる。

養生片仔癩の研究内容：

更に原田医師との共同で、C型慢性肝炎に対するYHKの臨床試験を行った。この研究の目的は肝臓生検による試験方法でYHKを試験することである。事前の臨床試験ではC型慢性肝炎患者のトランスアミナーゼ値がこのYHKによって大幅に減少した。

試験には55から69歳までの6名のC型肝炎慢性肝臓病患者がインフォームドコンセント後に参加した。各患者はC型肝炎と診断されて2から18年がしており、全患者のトランスアミナーゼ値は2から4倍に増加していた。5名の患者はUDCA（胆石溶解療法）であり、グリシルリジン酸治療を施していた。1名の患者は6ヶ月のIFN（インターフェロン）治療を終えたところであった。

試験に際し、全患者は肝生検を受けた。ウォッシュアウト期間後は各患者にはそれまでの治療および健康サプリやビタミンの摂取を止めるように指示をした。次いで各患者に10日間、1日に2回4粒のYHKを摂取、その後試験期間中は1日に2回、2から3粒のYHKを摂取する治療を施した。半年後に生検評価した。結果は以下のとおりである。

Fibrosis score	Necro-Inflamm.score	結果
F1→F0-1	A2→A0	向上
F2→F0-1	A3→A2	向上
F→F-1	A2→A2	変化なし
F0→F0	A2→A0-1	向上
F2→F3	A2→A2	悪化
F1-2→F1-1	A3→A1-2	向上

試験参加者は全員他の治療法で効果が見られなかった患者であった。患者6名のうち4名が2週間でGOT値が標準になり、うち2名が50以下であった。半年後には全員が標準値に戻った。試験期間中はYHKだけを飲み続け、GPT値は標準値を維持していた。この試験結果はYHKのC型肝炎患者に対する臨床試験の有用性を示唆するものである。

昔から1日にひとつのりんごは医者（イ）を遠ざける、と言われていた。しかしながら、近年では栄養補助食品がその栄養価においては優っており、この養生片仔癩は安全で副作用が無い点、毎日の摂取が可能である点を特徴とするものである。